

資料1

令和6年度善通寺市社会福祉協議会強化発展計画実施状況

Ⅲ 具体的な取り組み

【経営ビジョン1】

地域福祉への関心を高め、支えあう地域づくりを推進します

経営戦略	1-1 福祉の文化や意識をはぐくむための福祉教育を推進します
------	--------------------------------

地域の文化や風土を活かし、誰もが安心して暮らせるあたたかいまちづくりを目指し、地域の課題を「他人事」ではなく、「我が事」として捉え、市民一人ひとりが自分の暮らす地域に関心を持ち、多様性を認め、福祉に関する活動に主体的に参加できるよう、市民の意識の高揚に向けた福祉教育に取り組みます。

実施計画1-1-1 地域の実情の把握				
実施内容	地域の人口統計、地区の特性や資源などを把握したものを活用し、地域のニーズを分析し、地区の実施事業の取り組みの中で活用します。また、アセスメントシートづくりを、地域の方と一緒に作ることを通して、地域にある社会資源の情報を整理し、8地区地域福祉活動計画の推進や次期計画の策定に役立てます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
1 地域アセスメントの実施及びマップ化の検討	検討	実施		
2 地区社協実施事業への積極的な参加		継続実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
1 地区地域福祉活動計画を活かした、地域アセスメントシートづくり	8地区の基礎データの把握	社会資源のリスト、インフォーマルな資源や活動等の把握、可視化 次期地区地域福祉活動計画の策定に活用	B	A 地区地域福祉活動計画の策定支援に合わせ、アセスメントシートを整理し、社会資源の調査を実施した。キントーンでグラフ化を行い、視覚的に把握しやすい資料を作成した。地域診断を地域福祉係全体で行った。
2 地区社協等の活動取材し、広報に掲載することを通して、地域の人と関わり、活動の現状を市民に向けて発信し、地域への関心を高める	社協広報誌に、地区社協の活動を掲載(年4回)	年4回	A	A 主に地区担当が地区社協や民児協等の活動取材し、社協だよ！に掲載。インスタグラム・フェイスブックにも掲載できるしくみができ発信を継続している。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-1-2 権利擁護を基盤とした福祉教育の推進				
実施内容	地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指します。差別や格差、孤立などの問題が地域生活課題の一つであることを意識し、地域住民の理解を深める機会をつくり、その壁を取り除くとともに、地域で活動するすべての主体が、ともに理解し合い、認め合える福祉教育を行います。			
	年次計画			
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
3 地区社協と連携した座談会の開催	継続実施			
4 次世代交流を目指した地域と学校の連携の検討	検討 実施			
5 地域の実情や福祉についての取り組みの情報発信	継続実施			
6 多様性を認め合える場づくりの支援	継続実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
3 地区福祉座談会の実施	2地区	8地区	B	A 地区社協会長会で座談会の実施について説明した。個別に地区社協の会長に座談会開催アプローチ及び調整をし、7地区で実施することができた。
4 学校と地域が連携し体験プログラムを検討・メニュー化(地区社協活動や赤い羽根共同募金の仕組みを活用する)	未実施	各担当者と検討の機会を持つ	B	B 南部地区民児協での子ども民生委員の実施に向けて、高松市牟礼地区の視察研修を調整した。また、南部小学校の子ども達に向けて、民生委員活動についての授業を行い、子ども民生委員を実施できた。吉原地区キッズここ家で、子ども達や地域の人へ向けたミニ防災コーナーを企画した。

					体験プログラムのメニュー化には至っていない。
5 ホームページ広報誌等での福祉についての情報を掲載 (シリーズ化、誌面レイアウトを見直すなど編集の仕方を検討 福祉教育の視点を盛り込む)	継続実施	充実強化	A	B	広報はカラーページが増えて見やすくなった。 ホームページの更新頻度については、出来るだけタイムリーな更新に努めた。
6 ここ寄席、地区社協の研修等を活用し、多様性を認め合える場づくりを実施	実施	充実強化	A	B	ここ寄席を定期的に開催した。(地域で活躍する人を知ってもらい、地域住民の気づきや学びを得る機会となった。) 「地域共生社会のあり方について」というテーマで、地区社協の研修を行った。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	1-2 住民主体の支えあえる地域づくりを推進します
------	---------------------------

誰もが支え合い、安心して住み慣れた地域で暮らしていくためには、身近な地域で、それぞれの困りごとや心配事などが相談できるしくみや、早期に発見し、専門機関につなげるしくみが必要です。

地域の住民が主体的に参加し、交流を図り、学びあいながら、各地区の特性を生かし、これまでの活動を活性化したり、再構築する過程を通して、地域の住民とともに支えあえる地域づくりを推進します。

実施計画1-2-1 コミュニティソーシャルワーク機能の強化				
実施内容	地域において、生活のしづらさを抱える人やその世帯を地域でトータルに支える仕組みをつくるため、コミュニティソーシャルワーカーが配置されています。誰もが地域の中で孤立することなく、自分らしく暮らしていくために、「困りごとが社協に」つながるしくみづくりや、地域の「つながり・支えあい」の基盤づくりをします。			
	年次計画			
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
7 各地区民協に参加する職員の参加のあり方の検討	継続			
8 サロン、見守り活動、居場所等、地区社協活動事業から地域生活課題の把握	継続			
9 小地域ケア会議等の開催を関係者に働きかける	準備	開催		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
7 民児協定例会等の参加の手引きをつくる	検討	手引きの完成	B	B 地区の課題や困りごとをキャッチできるように定例会に参加しているが、手引きはできていない。
8 サロン、見守り活動、居場所等、地区社協活動事業から地域生活課題等について地域支援シートを活用し、見える化する	地域支援シートに記入し、共有	地域支援シートに記入し、地域課題を整理、座談会等で活用	B	A 地域支援シートの記入・入力を遅滞なく行うことができた。シートを活用し、情報共有を行い、CSW等の報告で見える化も図れた。
9 見守り推進員連絡会等での、困りごとの解決にむけた協議の場づくりの検討・実施	未実施	3地区で実施	B	B 見守り推進員の連絡会等でグループ討議ができた。地区地域福祉活動計画策定支援において、重点項目として位置付けてもらえるよう働きかけた。

9 事例検討や事後変化に関するフィードバックを徹底する	実施を心掛けているが、不十分	困りごとの相談後の変化や解決した状況を関係者と共有	A	A	民生委員等から相談のあった個別ケースについて、必ずフィードバックを行うようにしている。 相談支援担当が定期的に(3ヶ月に1回程度)地区民児協に出向き、事例紹介を行った。事業ごとに関わった事例を中心に取り上げ、フィードバック、事後変化を伝えている。
-----------------------------	----------------	---------------------------	---	---	--

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-2-2 地域福祉活動の支援					
実施内容	<p>コロナ禍により、大勢が集まり交流会や会食会を実施する事業が中止するなど、交流の機会や、地域の多様な団体で協働して取り組む機会が減っています。 改めて地域の福祉活動として『交流・参加・学びの機会』をつくるため、地域の状況に合わせ、目的や対象者などの現状をふりかえり、地域の住民とともに支えあえる地域づくりを推進します。</p>				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
10 地区社協活動の後方支援					
11 地域の特性に応じた支援の在り方を検討					
12 地区社協モデル事業の支援					
13 顔の見える関係の構築					
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
10 地区社協活動の役員会への参加	実施	目的をもって参加	R5	R6	
			B	A	<p>主に地区担当が地区社協役員会等に参加し、目的を地区ごとに整理し、共有するための検討を行った。 総会や地区地域福祉活動計画策定委員会等の開催に向けて相談支援を行い、総会等に参加。 地区社協研修会の相談を受け、企画提案、連絡調整を行った。</p>

見守りネットワーク事業の推進に向けた働きかけ	6 地区	8 地区	B	B	未実施の 2 地区(中央地区と南部地区)について策定委員会等を通して働きかけを行った。 中央地区:民児協においてアプローチしていけるよう準備。 南部地区:地区内で団体間での話し合いの場を持てるよう、会長に働きかけている。
地域福祉活動の担い手講座の開催	未実施	年 1 回開催	B	A	ここ家のワンディシェフなないろの主旨に賛同し、参画してもらえるシェフとアシスタントの募集を行った。また、シェフ等の担い手にもつながるよう3月にボランティア入門講座を実施した。 8月に地域福祉研修会を、10月にサロンのパワーアップ研修会と交流会を実施した。
11 地域診断の力を強化する研修の実施 (専門性から見た地域課題を地域にフィードバックする)	未実施	年 1 回開催	D	A	10月の経営マネジメント研修で実施した。また、座談会等、地区地域福祉活動計画策定委員会の中でフィードバックした。
12 地区社協モデル(地域の拠点・居場所づくり)	1 地区実施	4 地区で実施	B	A	東部地区の「ミニここ家」、筆岡地区の「カフェふでおか」、吉原地区の「キッズここ家」の実施において後方支援を行った。 また、筆岡地区では、岡山県玉野市地区社協が実施しているコミュニティかふえの視察研修の企画支援と調整を行った。
地区社協モデル(地域のお宝発見講座)	未実施	年 1 回開催	C	B	地区座談会でお宝発見ができる内容を盛り込み、実施した。
地区社協モデル(担い手養成講座)	未実施	3 地区実施	C	C	研修とあわせて、検討中。

地区社協モデル(生活支援サービスの検討)	地区社協で研修の実施	検討の機会を増やす(視察研修など)	B	B	座談会の中で、生活支援サービスにもつながるようなアイデアだしをした。
13 地区社協活動に参加した際に、社協の職員の顔を覚えていただけるよう(似顔絵入りなど)、名刺を100枚配付	未実施	デザインの検討・実施	A	B	ホームページ・インスタ・FBへアクセスするQRコードを裏面に配置した名刺カードを作成。社協職員の名刺をリニューアルし、見やすく工夫した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-2-3 民生委員との連携強化		年次計画			実施状況(年度別)		
実施内容	市民の身近な相談役、また市民と行政や専門機関、福祉サービスへのつなぎ役として地域福祉の中核を担う民生委員児童委員と連携し、地域の状況や課題を把握していくため、定例会や研修会へ出席するなど、活動の情報共有を行い、一人ひとりの委員活動及び地区民生委員児童委員協議会活動の支援に努め、地域の福祉活動のさらなる充実を図ります。	実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	R5	R6
14 市社協事業(居宅要援護者把握事業等)との連携や地区社協活動をつなぐしくみづくり			▶ 充実・強化				
15 ケース検討ができる民協の仕組みづくり		▶ 検討		▶ 充実・強化			
16 民生委員の任期期間における効果的な対話や支援のしくみづくり		▶ 検討		▶ 充実・強化			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	R5		R6		
14 各地区民児協にて、情報提供や、専門相談機関へのつなぎ役となる	実施	ミニ研修会の実施	A	B	民協定例会で受けた相談を持ち帰り、対応した。地域福祉連絡会で内容を検討し、事業説明やミニ研修会を年2回実施した。来年度、実施内容について検討していく。		
14 居宅要援護者把握事業及び災害時要配慮者台帳の検討	居宅要援護者把握事業を実施	強化・検討	B	A	災害時要配慮者名簿の地域での取り扱いについての説明会に参加した。		

					高齢者課と名簿について協議をした。
15 民生委員から相談のあった事例について、事例検討や事後変化についてフィードバックする	相談のあった民生委員にフィードバック	地区民児協でフィードバック	A	A	地区の副担当が地区民協に出向き事業ごとに関わった事例を中心に上げ、フィードバック、事後変化を伝えている。また、個別の相談に対してはフィードバックを徹底している。
16 民生委員の任期期間における効果的な対話や支援のしくみづくり	未実施	検討	B	A	民生委員の全員研修で、「子ども・若者支援」のテーマを取り上げ実施し、効果的な対話のきっかけを作った。支援の仕組みづくりの一環として民生委員から上がってきた地域の取り組みなどについて、事業説明等を行った。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-2-4 地区担当とコミュニティソーシャルワーカーの連携強化				
実施内容	社会福祉協議会が実施している各種福祉サービスや事業の担当者とも連携し、個別支援を通じて受け止めた生活課題を地域の課題として捉え、だれもが安心して暮らし続けることが出来る地域となるよう、社協組織内での連携を強化します。また住民等が主体となり、課題解決に向けて取り組む支え合い活動を支援する際にも、専門職のいる市社協の組織の強みを活かした取り組みを検討していきます。			
年次計画				
	実施項目	R5年度	R6年度	R7年度
17	地区の担当とCSWの役割整理	▶ 検討・実施		
18	地域生活課題の把握、情報共有の場づくり	▶ 充実強化		
19	課題解決にむけての話し合いの場づくり	▶ 充実強化		
	評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)

			R5	R6	
17 地区担当とCSWの機能や役割を整理し、可視化、共有	未実施	役割を整理し、可視化	B	B	地域福祉係を相談支援と地域支援の主担当で分け、役割分担を行った。地区には可能な限り地区担当の職員が出ていくようにし、毎月の地域福祉連絡会を活用し、情報共有や役割分担を行った。
18 係連携会議等を活用し、地域の課題と社協のサービス担当者との現状と課題を整理する場をつくる	試験的に実施	3 か月に 1 回	B	B	年間計画をたてて、計画的に実施できた。 係を超えて、困難ケースについての事例検討を行った。 係連携会議であがってきたケースから地域の事業につながった。係連携会議が現状と課題を整理する場となっている。
19 住民主体の視点をもった課題解決にむけた取り組み（会議の場の設定、調整、情報収集）の実施	試験的に実施	実施	B	A	地域福祉活動計画策定支援において、各地区で座談会ができるよう調整し、7地区で実施できた。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	1-3 誰もが活躍できるよう仕組みを作ります
------	------------------------

地域共生社会の実現に向けて、『支援する・される』から『頼り・頼られて活躍する』地域づくりが求められています。また、世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備することが必要となっています。その地域で暮らす誰もが、元気に活躍し続けられる場をつくり、頼りたい人と頼りたい人をつなぐためのプラットフォームを作るため、地域福祉活動の担い手づくり、拠点づくりを行います。また、地域生活課題を解決するための社会資源づくりのため、PDCAサイクルを意識し、住民とともにしくみづくりを行ないます。

実施計画1-3-1 地域福祉の担い手・リーダーの育成					
実施内容	地域福祉活動への関心を高め、参加を促すとともに、地域福祉活動をさらに活性化させていくため、研修会の企画、検討充実強化に努めます。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
20 地域福祉の担い手を育成する研修会の実施					
21 地域福祉リーダーの研修会の実施					
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
20 地区社協と連携した地域福祉サポーター養成研修の実施	未実施	検討 年1回	B	B	ボランティア入門講座を、地域福祉サポーター養成研修を兼ねて実施した。
20 地域福祉活動を住民主体でできるよう、ふれあいいきいきサロン代表者等の研修会を実施	年1回	年1回	B	A	10月に、サロンパワーアップ研修会を実施した。また、代表者同士が情報共有できる機会として交流会を開催した。 各地区のサロン代表者会に出席した。
21 地域福祉リーダーの研修会の実施 (地区連合自治会長、地区民児協会会長、地区社協会長等と連携協働するための研修会)	年1回	年1回	B	A	2月に東かがわ市社会福祉協議会において「災害にも強いまちづくり」というテーマで、視察研修を行った。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-3-2 地域福祉の拠点づくり				
実施内容	市民の誰もが元気に、楽しく、活躍できる場、利用する場、情報を共有することができる拠点づくりの整備と充実に取り組みます。また、地域において、地域活動を推進する団体や組織とも積極的につながり、それぞれが実施する居場所の役割、活動内容、課題整理を行い、連携強化を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
22 ここ家及びボラン家の活性化を図る	検討・実施			
12 地区社協モデル事業の支援	検討・実施			
23 地域の居場所づくりの推進及び地域内にある居場所(子ども食堂や居場所)のネットワークづくり	検討・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
22 ここ家の活性化を図る 機能・利用・活動について再検討する機会をつくる 課題整理、アイデア、企画開発、地域のニーズの対応 楽しいことを考える場をつくる	検討中	検討実施	A	A アート教室で、夏休み親子教室を企画、開催した。 生活支援コーディネーターの委託を受け地域のニーズ把握に努めた。生活支援コーディネーター協議体の開催を行った。
22 ボラン家の活用を検討 機能・利用・活動について再検討する機会をつくる 課題整理、アイデア、企画開発、地域のニーズの対応 楽しいことを考える場をつくる	未実施	検討実施	C	B コミュニティかふえ(火曜日 10時~14時)は、インスタ等にアップすることにより口コミも広がり、参加者が増加している。 ボラン家作品展の企画・調整を行った。
12 地区社協モデル事業の支援 地区社協等の居場所づくりを応援し、多様な主体が参加、活躍できる場となる居場所づくりを行う	地区社協においてミニここ家を試行的に実施	地区社協においてミニここ家、居場所づくりの実施	B	A 東部地区でミニここ家、吉原地区でキッズここ家を開催することができた。 他地区についても、居場所づくりの働きかけを行い、あらたに筆岡地区で

					「カフェふでおか」を開催することができた。
23 地域内にある拠点同士のつながりづくり、ネットワークの場づくりや情報共有	未実施(個別に相談を受けている)	検討実施	C	A	子ども食堂ネットワーク会議に参加し、食支援についての知識を深めた。子ども食堂が市内4か所あり、企業や団体からの寄付の受け渡しについてそれぞれにコーディネートを行った。中讃西圏域の社協が集まり、情報交換を重ね、「相談機能付き食支援体制整備事業」に取り組んだ。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-3-3 新しいサービスや資源づくり					
実施内容	世帯全体の高齢化や複合的な課題を抱える世帯の増加により、児童、高齢者、障がい者、生活困窮者などの分野ごとの対応だけでは課題の解決が難しくなっています。社協における包括的な相談支援体制を進めるとともに、住民の参加のもと、地域生活課題の解決にむけた取り組みを考える場づくりや、特技を活かした輝ける場づくりを通じて、人と人がつながり、生きがい、やりがいを感じられる新しいサービスや資源づくりを行います。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
24 生活課題に対応した新たなサービスや資源開発の検討	検討 実施				
12 地区社協モデル事業(居場所、地域のお宝発見講座など)の支援	充実・強化				
25 課題解決に向けたプロジェクト化の推進	検討・実施				
26 特技を活かした輝ける場づくりの検討	検討	企画・実施			
評価指標等	令和4年度基準値		目標値(令和7年度)		実施状況(年度別)
			R5	R6	
24 生活課題の現状を把握・共有する機会をつくる当事者の集まりや、地域ネットワーク会議の実施	年1回		年2回		C A 8月と2月にひきこもり研修会(ミニ勉強会)を実施した。

					<p>ひきこもりの家族を対象とした居場所「ひきこもり家族のつどい」や、発達障がいがあったり、コミュニケーションのしづらさを抱えていたりする方を対象とした居場所「ゆるゆるカフェ」を開催した。</p> <p>ひきこもりネットワーク会議に定期的に職員が参加し、顔の見える関係づくりが行えた。</p> <p>香川おもいやりネットワーク事業の担当者会と地域ネットワーク会議を実施。県全体で行う「おもいやり 10周年記念事業実行委員会」にも参加した。</p> <p>地域福祉研修会で、住民同士での話し合いの場を持ち、地域の課題を把握することができた。</p>
12 地区社協モデル事業についてのPDCAサイクルをイメージし、企画・調整・ふりかえり等を地域に働きかける	2地区	6地区	B	A	<p>東部地区社協でミニここ家、吉原地区社協でキッズここ家を実施し、それぞれ企画・調整・ふりかえりを行った。</p> <p>筆岡地区で、新たに地域の居場所に取り組むため、視察研修の企画と連絡調整を行い、「カフェふでおか」を開催することができた。</p>
25 地域生活課題解決に向けて住民と話し合いの場を持ちプロジェクト化を進める (例:ごみバスターズ、つぐやきボックス)	検討	実施	D	B	<p>地域福祉研修会で、住民同士での話し合いの場を持ち、地域の課題を把握することができた。</p> <p>プロジェクト化に向けて、視察研修の企画・調整を行った。</p> <p>生活支援コーディネーターの協議体で地域生活課題について意見を出し合った。</p>

<p>26 地区社協モデル事業の実施 (地域のお宝発見(人)発見講座(仮)などを実施し、特技を活かし活躍できる場、参加できる場につなげる)例:認知症があっても、特技のある人を見つける例:百歳体操を通して元気な人づくりを推進)</p>	<p>検討</p>	<p>実施</p>	<p>D</p>	<p>B</p>	<p>地区地域福祉活動計画策定における座談会に、地域の良い所やお宝発見につながる内容を盛り込むことで、多くの発見につながった。 地域で特技を活かして活躍している方などに語り手となっていただき、ここ寄席を実施した。</p>
---	-----------	-----------	----------	----------	---

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	1-4 安心して暮らせる地域となるため必要なネットワークを作ります
------	-----------------------------------

地域共生社会の実現に向けて、地域福祉活動推進のためのネットワークの場づくり、また官民協働の重層的な地域福祉ネットワークの構築は大変重要となります。

地域福祉活動を推進するためには、各圏域(単位自治会、小学校区、市全域、中讃圏域、県圏域)ごとに住民、専門職、当事者を含めたネットワークの場づくりが重要です。また、課題ごとのテーマに応じたネットワークの推進や各種ネットワークの会議への参画も含め、市社協として機能を活かしたネットワークづくりを進めます。

実施計画1-4-1 住民・専門職等の顔の見える関係づくり					
実施内容	香川おもいやりネットワークとも連動し、市内の社会福祉法人や医療や介護、福祉、教育分野の相談を担う専門職と、住民の相談役である民生委員児童委員が一同に会し、顔の見える関係をつくり、地域生活課題を解決する支援体制づくりのためにネットワークの構築を進めます。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
27 地域ネットワーク会議の定期的な開催		実施			
28 地域ネットワーク会議のメンバーの拡充・強化		拡充・強化			
29 既存のネットワークへの積極的な参加		意識して、啓発			
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
				R5	R6
27 地域ネットワーク会議の定期的な開催		年1, 2回		C	B
				おもいやりネットワークの施設担当者会と地域ネットワーク会議を実施した。	
28 コアメンバー等で今後のネットワークの場の在り方を検討する		検討		C	A
				自立支援協議会の部会(発達、精神、権利擁護)メンバーとなり参加。ネットワークの場の在り方について検討できた。 重層のプロジェクト会議を開催した。 施設担当者会は実施できたが、今後の	

					ネットワークの場の在り方は検討できていない。
29 広域的なネットワークへの積極的な参加や県内外の社協間の顔の見える関係づくり(県圏域、中讃圏域、市内)	参加	拡充	A	A	災害ボランティアセンターへの職員派遣に向けたオンライン会議に定期的に参加した。 中讃西圏域社協で取り組んだ「相談機能付き食支援体制整備事業(食支援の会)」に参加し、広域的に顔の見える関係づくりに努めた。
29 日常業務を通じ、様々なネットワーク会議へ参加し、顔の見える関係づくりを進める	参加	拡充	A	A	市民後見人フォローアップ研修の企画・運営を通して顔の見える関係づくりを行った。 CSW の研修、香川県社協主催の 3 事業(生福、生困、日自)担当者会に参加。 重層のプロジェクト会議を市と協働で開催。 また、個別ケア会議に参加した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画1-4-2 課題に対応したネットワーク会議の検討				
実施内容	相談支援担当者とも連携し、ニーズに対応できる仕組みづくりのため、必要に応じ地域生活課題に対応したネットワーク会議を開催します。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
30 課題に対応したネットワーク会議の検討				
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
30 地域生活課題解決のため、災害対応、農福連携、住居確保、居住支援などテーマごとにネットワーク会議を実施し、情報収集と関係づくりを進める	未実施	検討	B	B 石川県珠洲市の災害ボランティアセンターに、職員を1名派遣した。 夏と歳末のフードバンク等の食支援を通して地域の農家の方とつながりができた。 テーマごとのネットワーク会議を実施できるよう情報収集に努めた。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

【経営ビジョン2】

住民が安心して暮らせるよう、包括的な相談支援体制とサービス提供体制を整えます

経営戦略	2-1 断らない包括的な相談支援を強化します
------	------------------------

今日の物価高とコロナ禍の長期化により、生活再建が困難となっている方や厳しい生活を余儀なくされている方が増加しており、個人や世帯が抱える課題も一層複雑化・多様化しています。また、世代や分野を超えた課題も多く、どのような相談もまずは受け止め、適切な機関につないでいく総合相談窓口が求められています。

このことから、本会では住民が安心して暮らせるよう、断らない相談支援を強化し、包括的な相談支援体制を作ります。

実施計画2-1-1 断わらない包括的な相談支援の強化					
ねらい・ポイント	コロナ禍において、若年層やひとり親世帯、個人事業主やフリーランス、年金生活者等からの相談が増えています。生活困窮や障がい、8050 問題やひきこもり、ごみ屋敷や社会的孤立、虐待や DV、住まいや就労に関する相談など、地域には様々な課題があります。このような困りごとを抱える方が相談につながるよう断らない相談支援を強化します。				
	年次計画				
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
31 特例貸し付けのフォローアップ支援、アウトリーチの強化		検討	実施		
32 関係機関との情報共有の緊密化		強化・実施			
33 断らない相談体制づくり		強化・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
31 特例貸し付けのフォローアップのために、借受人の情報収集や生活課題を把握	対象者全員については未実施	対象者全員について完了させる	B	B	生活困窮者自立支援や生活福祉資金の担当者と連携し、借受人の生活状況の把握や来所者への対応を行った。フォローアップ支援として、訪問を実施した。歳末フードバンクに向けて特例借り受け人に対するフォローを行った。
31 食料品の配布会を活用したアウトリーチを実施	年末に実施	年1回以上実施	D	A	地域関係者の協力により、フードドライブを実施した。併せて、全国食支援協力会の助成金と共同募金を活用し、年2回

					(夏と歳末)、食料品の配布会と相談会を実施した。食を通じたアウトリーチにより、これまで関わりのなかった世帯と繋がることができた。
32 関係機関との連絡が取りやすいよう情報を整理する	実施	充実・強化	C	A	キントーンを活用し、整理できた。日常業務を通じ、都度、情報の更新もしている。
33 家計改善支援事業の導入	受託の検討	受託	B	A	受託2年目に入り関係機関等への周知が進み、相談へとつながっている。債務整理の相談や、弁護士との連携や年金事務所に同行し支援を行った。日常生活自立支援事業や生活困窮者自立支援事業との連携も進んだ。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-1-2 制度のはざまの課題や世帯への対応					
ねらい・ポイント	<p>専門分化した課題ごとの相談窓口や制度では複雑化・複合化した課題に対応することが難しい現状があります。どの制度も利用することができず、困難を抱えて生活している方や世帯に対して伴走型支援を行い、解決への希望を持ってつながりを継続することを目指します。また、相談につながる方が難しい方へ支援が届くよう、「困りごとは社協へ」ということを常に発信し続けます。</p>				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
34 どのような相談もまずは受け止める意識づくり					
35 困りごとは社協へという仕掛けづくり					
36 伴走型支援を意識した関わり					
評価指標等	令和4年度基準値		目標値(令和7年度)		実施状況(年度別)
			R5	R6	
34 職員が地域生活課題の全体像を把握できるよう、職員全体で情報共有できる機会を持つ	未実施		年1回以上実施		B A 係連携会議で令和6年度の重点項目について話し合った。地区地域福祉活動計画の推進支援のため、地区のアセスメントを行った。

					ラインワークスを活用し、情報共有を日常的かつ継続的に行っている。
35 地域住民の理解を深められるよう、ひきこもりや生活困窮、障がい等に関するミニ勉強会を実施	未実施	年1回以上実施	B	A	民生委員、地区社協に向けて社協の事業説明と事例紹介を行った。 ひきこもりミニ勉強会を2回実施し、家族を含め各回20~30名の参加があり、ひきこもりについての周知、理解が図れた。 市民後見人フォローアップ研修を通して権利擁護について周知・広報を図ることができた。
35 制度のはざまの対応ができるよう、民生委員や行政各課および関係機関に、コミュニティソーシャルワーカーや生活困窮者自立支援事業に関するチラシを配布	未実施	年1回	A	A	コミュニティソーシャルワーカーのチラシを地区社協総会等で配布した。(周知、広報) 広報へ毎回、つながるねっと(生活困窮者自立支援及び家計改善支援)の情報を掲載した。 夏と歳末のフードバンクのチラシを民生委員、関係機関等へ配布し周知、協力依頼を行った。また、フードドライブの案内を福祉大会で行った。 ひきこもりミニ勉強会等のチラシを関係機関へ配布し、周知、協力依頼を行った。
36 伴走型支援について職員が学ぶ機会を作る	未実施	年1回	A	A	生活困窮者自立支援制度の研修を通して伴走型支援について学んだ。 生活困窮者自立支援の県研修企画委員会に参加し、伴走型支援を行っている講師を候補として提案した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-1-3 組織内の専門性を活かした連携の充実					
ねらい・ポイント	地域の方が安心して暮らせ、自分らしく生きがいをもって日々を過ごせるよう、本会で実施している相談窓口や福祉サービス、介護・生活支援サービスの機能を強化します。また、組織全体で地域生活課題に取り組めるよう、それぞれの専門性を活かした連携の充実を図ります。				
	年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
37 組織内で複数の専門職(日常の金銭管理や訪問介護等)が関わっている同一世帯の支援を通じたケース検討の場づくり					
38 組織内の専門職の機能の整理と情報共有					
39 係間で地域生活課題を確認・把握できる場づくり					
評価指標等	令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
				R5	R6
37 係を超えてケース検討ができる機会を持つ	未実施		年1回以上	A	A 係連携会議で事例検討を実施した。
38 係連携会議を活用し、それぞれの専門性の強み・弱みを出し合い一覧表を作成する(弱みを補い合えるものを見つける)	未実施		一覧表の完成	C	B 係連携会議等で日常生活自立支援事業とヘルパーの事業についての話し合いを通じ、強み弱みを出し合った。
39 多くの職員がコミュニティソーシャルワークの研修に参加する	未実施		年2名程度	A	B CSW 関係の研修へ1名参加した。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-1-4 伴走型支援の充実強化	
ねらい・ポイント	複雑化・複合化した課題を抱えている世帯や、社会的孤立の状態にある方などに対して、課題解決を目指すアプローチのみでは支援の限界があります。課題の解決が長期に渡ったり、解決が困難な状態にあたりする方や世帯に対して、つながり続けることを目指すアプローチが求められています。このような伴走型支援の充実・強化をはかるとともに、課題を抱える方たちのストレングスに目を向け、可能性をア

セズメントするエンパワメントの関りを充実させます。					
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
40 アウトリーチによる継続支援	強化・実施				
41 エンパワメントの関わり	実施				
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
40 居場所や食支援などを通じたアウトリーチ	実施	年1回以上	A	A	食を通じた居場所「ここめし」を6回(2カ月に1回)、「ここめし女子会」を3回実施した。 夏と歳末に食料品の配布会と合わせて相談会を実施した。食支援を通じて新たな相談者にもつながるようアウトリーチに取り組んだ。
40 介護・生活支援サービスを活用したアプローチ	未実施	強化・実施	A	A	ヘルパーやここ家の生活支援サービスを活用し、必要な支援が届くよう、担当者との連携を図った。(ここ家の日誌を通して常に情報共有を行っている。)
40 民生委員や地域の方からの相談の丁寧な対応 (初回相談は可能な限り一緒に面談、訪問等行う)	実施	強化・実施	A	A	社協に入った相談をまずは受け止め丁寧な聞き取りを心がけ、必要に応じて、一緒に訪問したり来所での面談を行ったりしている。また、職員それぞれがフィードバックを必ず行うよう意識して、丁寧に行った。
41 ストレングスやエンパワメントの視点を共通認識できるよ	未実施	実施	B	A	各事業で統一した様式を活用し、それ

うケース記録の取り方を意識づける					ぞれがストレングスやエンパワメントの視点を持って行った。研修等も活用し、意識づけている。
------------------	--	--	--	--	--

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

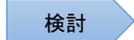
経営戦略	2-2 住民に信頼され、あらゆる生活課題を受け止められる社協職員を目指します
------	--

今日のような複雑・多様化した社会では、地域における生活課題も様々で、複雑に絡み合ったものは解決までに時間がかかり、相談すらもあきらめて出来なくなっている方が存在します。このような方や身近にいる地域住民の方が本会に相談することで今後の生活に希望が持てるよう、本人を中心として“伴走”する意識を基盤として、横断的な幅広い知識の習得とアセスメント技術の向上に努めます。

実施計画2-2-1 相談業務及びサービス提供業務に必要な知識及び技術の向上				
ねらい・ポイント	包括的な相談支援が担える制度横断的な知識やアセスメント技術の向上を図ります。住民に信頼されるよう、日常業務を通して自己研鑽に努めます。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
42 アセスメントシートを活用してのケース検討の場の確保	検討 →	実施 →		
43 貸付相談における総合的なマネジメントの視点を開発	検討 →	実施 →		
44 連絡メモを活用した情報等の共有化		実施 →		
45 研修への積極的な参加	検討 →	実施 →		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
42 アセスメントシートを活用し、課題の把握や支援のあり方、社会資源開発の視点などを持てるようケース検討の場を設ける	未実施	年1回以上	B	A 重層の課題シートを活用し課題の把握や支援の在り方、社会資源開発の視点などを持てるようケース検討の場を設けた。 10月の経営マネジメント研修で、アセスメントシートを活用して、事例検討を行った。
43 適切な見立て力や調整力の向上をはかるため、係連絡会で気になる世帯についてケース検討を行う	未実施	年3回以上	A	A 相談業務の担当職員で月に1~2回集まり、ケース検討を行った。
44 連絡メモ入力のルーティン化を試みる	導入期(お試し入力の実施)	実施	B	A 連絡メモ入力の定着化が図れた。 タイムリーに情報共有することができ

					支援に生かすことができている。
45 個々の職員が目標を達成できるよう「目標達成型」の研修計画をたて参加(計画、実施、記録化を促す)	未実施	職員一人につき、年2回以上	B	B	統一したものはできていないが、個々に目標を持って参加している。研修計画は今後作成する予定。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-2-2 3係連携による複合多問題等の事例共有の仕組みづくり					
ねらい・ポイント	複合多問題等を抱える個人や世帯が、困りごとの相談を気軽にでき、一人ひとりが自分らしく生きられるよう支え合いができる仕組みづくりを3係が連携して行います。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
46 地域共生の意識を持ちつつ相談支援や参加支援、地域づくりの取り組みを3係が一体的に行えるようになるため、情報共有や事例共有のあり方を検討		検討 	実施 		
評価指標等		令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
				R5	R6
46 職員全員研修や係連携会議を活用し、情報共有や事例共有のありかたについて意見を出し合う		未実施		実施	
46 事例共有ができる範囲の整理		未実施		マニュアル完成	
46 複合多問題等の課題を一緒に確認・把握できるよう、職員全員研修等でケース検討会を実施		未実施		年1回	
				A	A
				係連携会議やラインワークスのアンケート等を活用し、実施した。事例共有のあり方について意見を出し合っている。	
				A	A
				話し合いを行った。今後、マニュアル作成を行う予定。	
				A	A
				地域福祉系の連絡会、在宅福祉の定例会、係連携会議を活用し実施できている。経営マネジメント研修でケース検討会を実施した。	

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

経営戦略	2-3 地域の困りごとに対応できるネットワークを確立します
------	-------------------------------

地域の困りごとは多様化・深刻化・潜在化しています。そのため、地域の困りごとに対応するには多様なネットワークと、それを活用しチームで関わるのが重要です。本会では生活福祉資金や生活困窮者自立相談支援事業、福祉サービス利用援助事業や法人後見、介護保険や障害福祉サービスに対応する在宅福祉サービス(居宅介護支援や訪問介護)など多岐にわたる業務を行っています。このような業務を通じ、他機関との顔の見える関係づくりに努め、地域の困りごとに対応できるネットワークを確立します。

実施計画2-3-1 福祉、医療、介護、教育、司法、産業などの分野との連携・支援を充実					
ねらい・ポイント	世代や分野を超え多様化・複雑化する課題に対応するには、単一の相談窓口や機関だけでは課題解決に結び付きにくい状況があります。このため、福祉だけではなく医療や介護、教育、司法、産業などの分野が連携しチームとして関わるのが重要です。縦割りの弊害を少しでも軽減できるよう、分野を超えて支援を行えるありかたを模索します。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
47 個別支援を通じた顔の見える関係づくり	→ 実施				
48 ソーシャルサポートネットワークの構築	→ 検討	→ 実施			
49 具体的な成功事例を共有する場づくり	→ 検討	→ 実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
47 日常業務を通じた連携の充実(ケース会等の積極的な参加)	実施	充実・強化	A	A	可能な限りケース会等に参加し、連携を図っている。また、日常業務の中でも連携を密にし、情報共有を行っている。要保護児童対策地域協議会や支援会議に参加し連携を強化した。

48 顔の見える関係を作れるよう、自立支援協議会および部会、ひきこもり支援者のネットワーク等既存のネットワークに参加	実施	充実・強化	A	A	可能な限り参加し、顔の見える関係づくりに努めた。自立支援協議会と精神保健福祉部会や発達支援部会に定期的に参加。 ひきこもり支援関係者ネットワーク会議に年間を通して参加。 重層のプロジェクト会議に参加。
49 民生委員からの相談事例について、その後の報告を丁寧に行う	実施しているが十分ではない	充実・強化	A	A	日常的な相談対応に加え、地区民協等のミニ勉強会も活用しながら報告を丁寧に行った。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画2-3-2 個別支援から地域づくりにつながる仕組みづくり					
ねらい・ポイント	本会に寄せられるすべての相談や、本会が実施しているサービスから、地域生活課題を再整理します。その中で把握した地域生活課題を解決するための取り組みをコミュニティソーシャルワーカーと一緒に模索します。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
50 個別相談やサービスからの地域生活課題の把握		検討	実施		
51 個別相談やサービスから把握した地域生活課題を再整理		検討	実施		
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		実施状況(年度別)
			R5	R6	
50 連絡メモやアセスメントシート、記録等を活用し、地域生活課題を把握		未実施	把握した結果を可視化する		C A 相談連絡メモなどを活用し地域生活課題を把握できているが、分析には至っていない。 把握した結果の可視化は、CSW 等各事業の報告で行えている。
51 キントーン(連絡メモ等を入力しているシステム)を活用		未実施	再整理したものを可		C B キントーンの入力環境は整い、活用で

し、課題を再整理		視化する		きている。再整理のためのデータ蓄積ができています。
----------	--	------	--	---------------------------

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

営戦略	2-4 地域の生活課題を解決できる仕組みを作ります
-----	---------------------------

社会は多様な人から成り立っており、地域が抱える生活課題も多様です。その中には制度の狭間にある問題や出口のないものも多く、解決に向けた仕組みづくりが求められています。

このようなことから、本会では住民や専門職がそれぞれに強みを出し合い、困りごと解決に向けて社会資源の開発を行えるよう仕組みを作ります。

実施計画2-4-1 住民や専門職と協働での社会資源の開発				
ねらい・ポイント		地域に共通する課題で、対応する社会資源がないものに対して、住民や専門職と協働し課題解決のプロジェクト化に取り組みます。 また、就労に向けた準備ができる中間的就労の場として、農福連携ができるよう農業関係者や機関への働きかけも行います。		
年次計画				
実施項目		R5年度	R6年度	
52 困りごと解決のためのプロジェクト化の検討		検討 →	実施 →	
53 出口のない課題対応のための社会資源の洗い出し		検討 →	実施 →	
54 就労先の開拓への取り組み		検討 →	実施 →	
55 社会福祉法人との連携による施策やサービスの開発		検討 →	実施 →	
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
52 先進地への視察、研修	未実施	1か所以上	D	A 10月の重層の視察研修を市と一緒にに行った。また、ごみプロジェクト等の取り組みに向けて先進地への視察を企画・調整した。
53 3係で出口がない人の課題に対応するための、出口がない社会資源について出し合う	未実施	実施し、洗い出したものを可視化する	C	B 係連携会議での事例検討を通じて、社会資源についても検討した。また、重層のプロジェクト会議に提出する課題シートを準備し、会議に向けて係内で話し合った。
54 農業関係者へ連携について相談	未実施	1か所以上	D	B 相談できるよう、情報収集を行っている。フードドライブの相談を通じて民生委員の農業関係者とは連携が進んで

					いる。
55 おもいやりネットワークの会議等を通して、必要なサービスについて話し合い、試行的に実施してみる	未実施	検討・実施	C	B	香川おもいやりネットワーク事業の10周年実行委員会へ参加した。担当者会と施設担当者会を実施し、話し合いは行われたが、試行的な実施には至っていない。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

【基本目標・経営ビジョン3】

安定した法人運営と地域生活課題や社会情勢に対応できる組織づくりを目指します

経営戦略	3-1 安定した財源の確保に努めます
------	--------------------

地域福祉を推進する中核的な組織である本会は、収益性・対価のない事業を実施することが多く、市民の方の会費や寄附金、また、市及び県の補助金・委託金により運営を行っています。

このことから、安定した組織運営を図るための補助金・委託金の確保及び新たな事業等の検討を行います。

そして、会費、寄附金についてもより多くの市民の方により分かりやすく理解していただけるようホームページ等を活用した情報発信を行います。

実施計画3-1-1 自主財源の安定的な確保				
ねらい・ポイント	自治会加入世帯の減少、地域連帯感の希薄化等による会費及び寄附金の減少を少しでも逡減するため、振込みによる会費の徴収、ホームページ等を活用した情報発信等を行い、強化を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
56 社協会費の納入方法の検討	検討		実施	
57 ホームページ等SNSを活用した情報発信	検討	実施		
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
56 振込みによる社協会費の納入	未実施	全自治会への周知、実施	C	B 会費は、検討段階であるが共同募金はペイペイや振込による納入を推進した。
57 会費、寄附金等の使われ方等のSNSを活用した情報発信	未実施	ホームページ、Facebook、Twitterによる情報発信	B	B ホームページで会員会費制度、寄附について啓発しているが、他SNSでの発信は出来ていない。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-1-2 補助金・委託金の確保及びルールづくり					
ねらい・ポイント	市及び社協の実施事業等についての相互理解を深めるとともに、社協運営補助金について補助金交付要綱に沿った要求ができるよう理解を求めます。また、委託事業については、本会の方向性や委託金額が適正であるかを検討した上で、受託します。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
58 市施策、関連事業の情報共有と協議	強化・実施				
59 補助金交付要綱に即した補助金要求及び検討依頼	検討		実施		
60 委託事業の適性な受託	随時検討・受託				
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
58 市保健福祉部との定期的な情報交換会の実施	年間2回	年間3回(9月、11月、2月)	A	A	社会福祉課と予算編成に向けた情報交換会を実施した。
59 補助金交付要綱に即した補助金要求のための検討依頼	未実施	要綱に即した要求	A	B	昨年度と同基準での要求が出来ている。
60 予算要求時等における委託事業の受託検討	実施	実施	B	A	ファミリーサポートセンターの受託について子ども課から打診があり、他市社協への訪問調査を実施し、検討した。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-1-3 新規事業等の受託の検討					
ねらい・ポイント	重層的支援体制整備事業の実施について、市へ積極的に働きかけます。また、実施する場合は、受託し、地域福祉の推進強化及び財源の確保を目指します。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
61 重層的支援体制整備事業等の積極的な働きかけと受託	検討	実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
61 重層的支援体制整備事業の受託	未実施	受託	A	A	令和7年度においては、多機関協働体制整備事業の中でアウトリー

					子を進めること、生活困窮者支援等のための地域づくり事業の中で地域の居場所づくり事業を進めることを協議した。
--	--	--	--	--	---

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

計画3-1-4 効果的な積立金の運用					
ねらい・ポイント	本会の重要な財源である各種基金については、年々減少していますが、運用益については、重要な財源の一つです。しかし、運用については国債を基本としているため運用益は見込めないことから、規程の改正を行い、出来るだけ安全に運用でき、運用益を見込めるよう、リスクヘッジのため、ファンド等を活用します。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
62 ファンド等を活用した積立金の効果的な運用の検討		検討・規程改正		実施	
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		実施状況(年度別)
62 基金運用規程の見直し		未実施	見直し・運用		R5: D, R6: B
本会監事に相談し、現在は規程により、国債のみの運用であるが地方債も検討してはとの意見をいただき、今後検討する。					

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-1-5 介護保険等事業等の適性化・構造化					
ねらい・ポイント	独立採算事業である介護保険等事業の経営については、厳しい状況が続いていることから、収入増に向けた検討を行うとともに、社協らしい事業展開を図り、事業規模についても検討していきます。また、通所サービス事業(市委託事業)について、適性化も踏まえ、検討します。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
63 訪問介護事業、障害福祉サービス事業の充実強化		検討		充実・強化	

64 居宅介護支援事業の充実強化	検討	充実・強化		
65 通所サービス事業の経営の再検討	検討			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
63、64、65 在宅業務改善会議での経営状況の分析、課題の把握による事業の適性化	実施	充実実施	C	C 定例運営会議の中で事業活動収支を共有し、課題を検討しているが、サービスの利用者減など今後の見通しについて慎重に対応していく必要がある。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

組織を安定・継続的に運営してするために職員の強化・育成は最重要課題であると同時に、組織体制の整備も必須です。市民の方に信頼され、地域の方とともにふくしのまちづくりを進められるよう、職員育成、組織体制を強化します。

実施計画3-2-1 計画的な職員の採用					
ねらい・ポイント		組織を安定継続的に運営してするために、均等な年齢層の職員を確保することは重要であるため、定期的な職員採用について協議を行います。			
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
66 組織の安定継続のための計画的な職員採用の検討実施		協議	実施		
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		実施状況(年度別)
66 事業展開に応じた計画的な人材確保		未実施	実施		R5: B, R6: B, 新規委託事業実施に向けた職員採用を実施する予定である。

A:できている B:ある程度できている C:あまりできていない D:できていない

実施計画3-2-2 組織を担うことができる人材の育成					
ねらい・ポイント		採用時から組織の業務・役割に応じた研修等の実施、また、人事異動により業務の幅や見識を広げ、ゼネラリスト(総合職)の育成を図ります。			
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
67 職務に応じた研修の充実・実施		検討	実施		
68 人事異動による人材の育成・活性化		検討		実施	
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)		実施状況(年度別)
67 職務に応じた研修計画の作成		未計画	研修計画に沿った研修の実施		R5: D, R6: C, 計画は未作成だが、職務に応じた研修は実施できている。(会計研修)

					等)	
68	ルールに沿った人事異動の実施	実施はするが、ルール化はされていない	ルール化による人事異動の実施	C	C	基幹的職員の人事異動について一定の共有が図れたが、ルール化及び実施は出来ていない。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-2-3 社協組織全体としての方向性の統一						
ねらい・ポイント	社協の使命を全職員が共有することにより、係間の連携を密にし、更なる福祉サービスの向上を図ります。また、係間連携会議を実施し、実施事業等の理解を深めるとともに、対応困難な世帯等の事例検討を実施し、社協組織としてそうした世帯の生活を支えていける基盤をつくります。					
年次計画						
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度		
69	社協の使命を全職員で共有できる研修体系の確立	検討	実施			
70	実施業務の共有と対応困難な世帯等を支えていける組織の基盤づくり	充実・強化				
評価指標等		令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
				R5	R6	
69	職員全員研修の充実実施	年2回実施	年3回実施(講師による研修含む。)	B	C	職員全員研修を1回実施するに留まっている。
70	係間連携会議の実施	毎月1回実施	毎月1回実施する中で事例検討を実施	A	A	各係の代表職員が企画を検討し、地域福祉係主導で充実した係間連携会議を実施できている。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-2-4 包括的な支援ができる組織再編					
ねらい・ポイント	複合多問題にもワンストップで対応できる組織体制の構築を検討するとともに、実施事業のスクラップアンドビルドを実施します。				
年次計画					
実施項目		R5年度	R6年度	R7年度	
71	複合多問題にもワンストップで対応できる組織再編の検討	検討		実施	

72 事業の効果的実施のためのスクラップアンドビルド		検討・実施			
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
71 組織体制の見直し	未実施	再編	D	B	今後、検討することの共有は出来たが、未実施。
72 係連絡会による事務事業の見直し	地域福祉係のみ実施	各係で随時実施	C	D	地域福祉係のみの実施に留まっている。

A : できている B : ある程度できている C : あまりできていない D : できていない

経営戦略	3-3 DX (デジタルトランスフォーメーション) による事務事業の効率化を図ります
------	--

組織の健全な運営を図るためにも、DXにより、人事・労務等において事務事業の効率化及び業務の省略化・可視化を図ります。

実施計画3-3-1 DXによる人事・労務等事務事業の効率化					
ねらい・ポイント	DXにより、事務事業の効率化及びリスクマネジメントを図ります。				
年次計画					
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度		
73 クラウドを活用した人事・労務管理システムの導入	検討・実施				
74 事務の効率化を図るための会計システムの見直し	検討・実施				
75 ICTを活用した届出関係書類の効率化	検討・実施				
76 ネットバンキングを活用した適正な金銭管理の実施	検討	実施			
77 相談支援業務及びサービス提供業務のICT化	検討・実施				
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)		
			R5	R6	
73 人事・労務管理システムの導入	未実施	導入・運用	A	A	ジョブカンを活用した勤怠労務システムを安定して運用出来ている。
74 会計システムの見直し	検討中	導入・運用	D	D	未実施。
75 電子申請の積極的活用	未実施	導入・運用	D	A	社会保険等、電子申請を活用し、効率化を図れた。
76 ネットバンキングの導入	未実施	導入・運用	A	A	導入済。
77 キントーンを活用した相談業務、在宅福祉サービス等の可視化	運用中	充実・強化	A	A	キントーンを活用し、可視化、効率化できるアプリを構築し、運用出来ている。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

市民の方の個人情報等を多く保有する本会において、適正管理のための体制を構築します。

また、自然災害や新型コロナウイルス感染症などにより、組織運営が滞らないよう事業継続計画を適時、見直します。また、災害発生時に本会が開設する災害ボランティアセンターについて、開設のための基準等の明確化を図ります。

実施計画3-4-1 情報管理に関わるリスク対策の強化				
ねらい・ポイント	住基情報等の情報を保有することから、情報管理を徹底し、個人情報保護規程等を適宜、見直し、リスクマネジメントの強化を図ります。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
78 個人情報の適正管理のためのルール化	実施・適宜見直し			
評価指標等	令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
	R5	R6		
78 制度改正に応じた個人情報保護規程等の見直し	実施	実施	D	A 制度改正はなく、現状で運用中

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-4-2 事業継続計画の見直し				
ねらい・ポイント	災害時等の組織としての事業実施優先度を明確にするとともに、介護保険事業所、障害福祉サービス事業所の事業継続計画についても、その都度見直しを行います。			
年次計画				
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
79 事業継続計画の定期的な見直し	見直し			
評価指標等	令和4年度基準値		目標値(令和7年度)	
	R5	R6		
79 事業継続計画研修会の実施	未実施	実施(年1回)	A	A 在宅福祉関係のBCPを策定、4月に見直しを実施出来た。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない

実施計画3-4-3 災害ボランティアセンター開設のための体制強化				
ねらい・ポイント	災害ボランティアセンター開設については、市地域防災計画の中で社会福祉協議会が行うことが明記されており、実際の災害発生時に対応できるよう研修・訓練を実施するとともに、開設の基準を明確化するため、市防災管理局と協議を行います。			
	年次計画			
実施項目	R5年度	R6年度	R7年度	
80 災害ボランティアセンター開設のための研修の実施	実施			
81 災害ボランティアセンター開設のための訓練の実施	検討	実施		
82 災害ボランティアセンター開設のための市防災管理局との基準等の明確化	協議	基準の明確化		
83 災害ボランティアセンター業務を活かすBCPの作成	検討		実施	
評価指標等	令和4年度基準値	目標値(令和7年度)	実施状況(年度別)	
			R5	R6
80 災害ボランティアセンター開設のための研修会	未実施	実施(年1回)	C	C 県が実施する研修会に参加。
81 災害ボランティアセンター開設のための訓練	未実施	実施(年1回)	C	C 県が実施する研修会に参加。東かがわ市災害ボランティアセンター運営訓練に参加し、次年度に向けての土台ができた。
80・81 県社協等が実施する災害関係研修会への参加	参加	積極的な参加	D	C 研修会に参加
82 市防災管理課との打合せ会の実施	未実施	基準の明確化	B	B 自治防災課、社会福祉課等と連携は取れている。
83 災害ボランティアセンターと連動したBCPの作成	検討	実施	C	C 検討出来ていない。

A：できている B：ある程度できている C：あまりできていない D：できていない